

東北版

社 本
 東京都中央区日本橋茅場町
 2-2-2 〒103-0025
 TEL 03-56642-7011
 FAX 03-56642-7005

成澤鉄工所(山形)

2代連続「兄弟で協力・補完し合う」

さまざまな発信、若者にアピール

山形県のMグレードファブ、成澤鉄工所(本社・鶴岡市)は、兄の成澤克志(かつし)社長と、弟の拓(ひろく)専務が兄弟でがんばっている会社だが、実は先代社長の俊克氏と、その弟であり現相談役の隆夫氏も兄弟でがんばってきた会社だ。2007年には全



上=俊克前社長(右)と弟の隆夫前専務(2007年当時)、
 下=克志社長(右)と弟の拓専務(2020年現在)

図っている。国版の新聞に掲載されたところもある。そうした「伝」を大切にすると同時に、ウェブによる情報発信やテレビ番組出演など新しい取り組みも行っている。

また、昨年、第3工場(床面積2000平方メートル)を竣工するなど設備増強も図っている。震災対応で大変な時期もあった。いろいろやり尽くしたところへ、父と兄から「戻って来い」と電話が来て、「そろそろ親孝行しようか」と思ったそうだ。拓専務の入社が決まったころに先代社長

が亡くなり、「孝行したい時に親はなし」を実感したという。入社後は兄弟で2人一緒に考えて仕事をしてきたが、片方がイケイケの時は片方がブレーキをかけるなど、協力だけでなく補完し合う関係でもあるという。

素敵なイメージ発信
 同社では経営陣2人のフレッシュな発想力でいろいろな工夫をして情報発信を行っている。社屋の大通りから見えるガラス張りのコーナーに、米国のヒーローキャラクター「アイアンマン」の大型フィギュアを設置。道行く人々の関心を惹いている。玄関では人型ロボットのペッパーが迎え入れる。第3工場の外壁面には巨大なQRコードを塗装。スマホなどで画像を撮れば、同社のホームページにそのまま入れる。

「そろそろ親孝行を」
 克志社長は25歳で入社して現在20年。8年前に先代社長が亡くなり社長に就いた。当初は隆夫氏が社長になる予定だったが、「俺が社長になっても年齢的にすぐ代替わりするだろうから、克志が最初から社長になつたほうが良い」と言い、自ら相談役に就任した。

拓専務は地元のゼネコンで19年勤めた後、同社へ入社し、今年7年目となる。ゼネコン時代は地元だけでなく他地域での物件も数多く手がけ、都心の狭小地建築など難しい物件も手がけた。震災対応で大変な時期もあった。いろいろやり尽くしたところへ、父と兄から「戻って来い」と電話が来て、「そろそろ親孝行しようか」と思ったそうだ。拓専務の入社が決まったころに先代社長

「課題は教育と働き方改革」
 今後の課題は、急増した人材の教育と、働き方改革への対応だ。前者は階層別教育などを想定している。克志社長は「売上高がこの5年で約2.5倍となった。教育に重点を置き、足元を固めていきたい」と展望する。後者は残業減・休日増の中で売上・利益を維持向上させるため、ITやAI活用で効率化を進めていく。拓専務は「ゼネコン時代にいろいろな取引先を見てき

口を揃える。が亡くなり、「孝行したい時に親はなし」を実感したという。入社後は兄弟で2人一緒に考えて仕事をしてきたが、片方がイケイケの時は片方がブレーキをかけるなど、協力だけでなく補完し合う関係でもあるという。



第3工場の外壁面にQRコードを塗装し、ホームページへ誘導